

# 野菜や果物の力を見直す

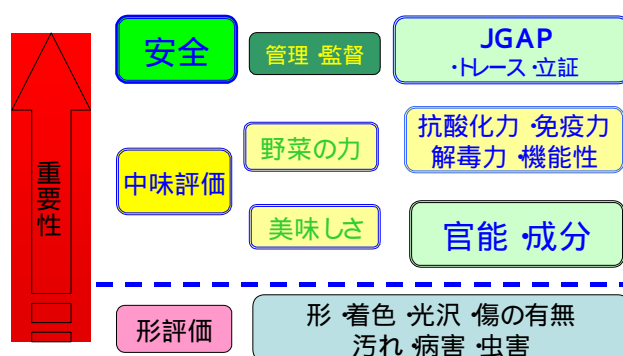
～食の持つ重要性が変わり、抗酸化力の統一指標を

リコピン、カテキン、アントシアニン、イソフラボンなど、食品に含まれる抗酸化成分には、生活習慣病の予防や改善、美容効果があるということが知られている。ところが、抗酸化力の強さを測る一定の基準がないため「リンゴとミカン。トータルの抗酸化力はどちらが高いか」、「リコピン mg 入りとカテキン mg 入りの飲料では、どちらの抗酸化力が高いか」といった横並びの評価は難しいのが現状である。そこで、野菜や果物に含まれる抗酸化物質の抗酸化力の新しい指標「活性酸素吸収能力 (ORAC)」を示す単位として、「ORAC Unit (オラック ユニット)」に統一しようとする研究が始まっている。

(Antioxidant Unit 研究会：理事長・大澤俊彦  
名古屋大学大学院生命農学研究科教授)

活性酸素が糖尿病や高血圧、動脈硬化から引き起こされる心疾患など、さまざまな病気の発症に何らかの因果関係があると考えられているが、食品がもつ抗酸化力について一定の指標で示すための基準作りを目指している。抗酸化物質は、食品では特に野菜や果物に含まれており、カテキン、フラボノイド、アントシアニン、カロテノイド、ビタミンC、ビタミンEなどがある。食に対する重要性の変化、野菜や果物の価値、評価が変わり、果物・野菜の力が見直され始めた。(次ページへ続く)

## 食の“重要性”の変化



### 遠めがね

この季節、旭川空港に下降する機窓からは、太陽に光を浴びて神々しく輝いている水田が見える。地球温暖化は北海道米に恩恵を与えている。米輸入国であった北海道は米の品質と食味を大幅に向上させ道内自給率を高めた。この動きに警戒心を抱き始めたのはコシヒカリ大国の新潟県だ。新潟コシはまだ約半分が売れ残っているとの報告もある。この新潟県に新たな米作り名人が誕生した。柏崎市と上越市に、集落営農の存続に危機感を抱きサラリーマンから専業農家に転向して夢のある稲作を実現している農業法人がある。上越に産まれたばかりの「有限会社穂海」と日本農業大賞を受賞した「有限会社山波農場」だ。穂海の丸田社長は東北大学機械宇宙学科卒業の33歳。10町歩の集落営農のリーダーとして、日本で初めてコメでのJGAP団体認証を取るなど革新的な農法を取り入れた。米価低迷時代を生き残るには農業の自立である、と明るく自分の未来を語る。疲弊した柏崎の豪雪地帯の山村を活性化するため、山波農場の山波社長は建設会社を退職し、専業農家に転向した。合理的な農法を取り入れ、100町歩近い水田でこだわり米を作っている。廃棄された電柱を買い集め精米設備を作るなどコスト削減努力も並大抵ではない。こだわり米を消費者に理解して貰うため、積極的に都会と田舎の交流を進めており、日本農業大賞の受賞も領ける。「自立へ向けての率先垂範」「こだわり米で消費者を魅了」「先進技術導入で農業経営」「明るさと誇り」が生き残りの秘訣のようだ。爽やかな気持ちになった新潟の出張だった。

### 青果物の中味評価時代の到来か？

今までスーパーなどの量販店の要請で、青果物流通はL・M・Sのサイズに、着色剤等により色も光沢も同一基準に揃えられてきた。ところが、昨今では消費者の安全・安心への関心が高まり、それに呼応するように、顔の見える農産物がスーパーの定番となってきた。米国では、国をあげて肥満防止対策として野菜摂取を進めた結果、90年以降、要介護高齢者数が毎年1.5%減少している。また、健康ブームに乗り、スーパーでは野菜の栄養価を表示し始めた。市場が本物の農業、農産物を改めて求めている。今まで、肥料業界の最大の関心は農産物の収穫量であったが、農産物の美味しさに加え青果物の抗酸化力、免疫力、解毒性などの機能性を高める肥料製品の開発、栽培指導が求められる時代の到来の兆しが見え始めた。

### I F A イスタンブール (5月21-23日) 報告より

今年のI F A イスタンブールのキーワードは“イスタンブールリッシュ”。イスタンブールと強気(上昇)相場を意味する英語の“ブリッシュ”を足した造語だが、サプライヤー筋は高騰する原料相場や旺盛な肥料需要を背景に軒並み大変元気、強気、陽気で、他方バイヤー側は日本や韓国に代表される負け組み(比較論です)とバイオ燃料景気に沸くブラジル、アルゼンチン等南米勢やマレーシア、インドネシア等に代表される勝ち組の2極に分かれた感がある。バイヤー側が一枚岩になり難いという構図も最近の国際マーケットの特徴的な現象でサプライヤー優位な状況を後押しするもの。

尿素 2000年 2007年1月330%上昇    りん安 2000年 2007年1月290%上昇

海上運賃 2006年 2007年280%上昇    とうもろこし相場 2005年 2007年200%上昇

米国エタノール生産2000年 2005年260%上昇    カリは、中国・インド・ブラジル・マレーシア・インドネシアの5カ国で毎年100万トンの需要増    国内来肥価格はいかに？

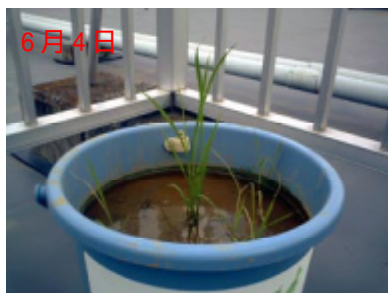


5月31日(木)、はるばる新潟より当社本店にバケツ稲が到着しました。このバケツ稲の配布は、上越コシヒカリをよりPRする為にJAえちご上越が上越市役所と共同で昨年度から始めました。2年目となる本年度は、昨年度の約4倍である222個のバケツ稲が首都圏の小売店や小・中学校に配布されました。ちなみに品種は新潟県で開発した、いもち病抵抗性の高い「コシヒカリBL」です。到着した当時は5枚目の葉が伸びている最中でしたが、6/12現在では8枚目の葉が伸び始め、しっかりと根を下ろしている

様子が伺えました。順調に育っておりこれからの成長が楽しみです。バケツ稲の栽培を通して稲を身近に感じ、米についての理解を深める良いきっかけに出来たらと思っています。今後も成長過程をレポートしていきますので、皆様どうぞご期待下さい。(農産部 草野真由美)



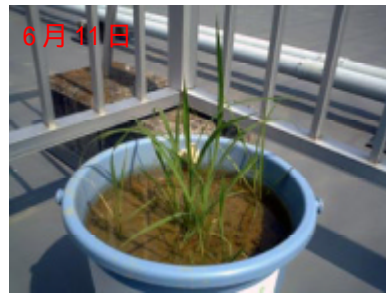
到着した時の様子



背丈がスッと伸びてきました



徐々に分けつが進んできました



8枚目の葉が伸び青々と茂ってきました

西から徐々に梅雨入りしました。長雨の嫌な季節も、今年はラニーニャ現象の発生で短い梅雨になり、そして猛暑の夏になるとか。当社ではクールビズを励行しております。ご来訪時は何卒ご了承下さい。

編集局長：小田原次洋    アシスタント：助川尚子

電話：03-5802-2011/E-mail：journal@mcagri.co.jp    URL http://www.mcagri.jp